

10. 環境理工学部

(1) 環境理工学部 of 教育目的と特徴	10-2
(2) 「教育の水準」 of 分析	10-3
分析項目Ⅰ 教育活動 of 状況	10-3
分析項目Ⅱ 教育成果 of 状況	10-12
【参考】データ分析集 指標一覧	10-15

(1) 環境理工学部の教育目的と特徴

1. 人類の英知を結集し健全な生活環境，自然環境の維持・保全に努めることの重要性は論をまたない。本学部ではこのような社会の要請に応え，岡山大学が第3期中期目標に掲げた「国際社会や地域社会と連携した実践的教育，世界の異文化を深く体験するグローバルな教育を含む異分野連携教育の展開による『学びの強化』に取り組む」べく，科学的立場から，自然と人間が調和した豊かで快適な環境を創造するための教育を行い，環境問題の解決に貢献することのできる以下のような人材を育成する。

- ① 自然界と人間社会が調和した豊かな環境を創造できる人
- ② 自然科学と社会科学の両面から環境問題に取り組める人
- ③ 環境問題を広く，そして深く理解できる人

2. 本学部の4学科の人材育成方針を以下に示す。

- ・環境数理学科：環境に関わる現象解析には，対象そのものに対する理解に加え，解析のための理論と技術を身につける必要がある。現象解析に必要な数学，統計学，計算科学の基礎と幅広い応用能力を身につけた研究者，技術者を養成する。
- ・環境デザイン工学科：安心，安全で持続可能な社会の構築を使命とし，土木工学と環境工学とを融合させた教育を行い，環境に理解のある土木技術者，土木分野の素養のある環境技術者の養成を行う。
- ・環境管理工学科：自然環境の適切な管理と資源の持続的な利用に関する幅広い教育を行い，人間活動と自然環境が調和した地域空間を創出・管理するために必要な広範囲な知識や技術をもつ人材を育成する。
- ・環境物質工学科：物質変換やエネルギー変化についての理解を深め，優れた機能を持つ材料の創製や資源・エネルギーの有効利用のための新たな化学プロセスを創出し，住みやすい環境作りに貢献できる人材の養成を行う。

3. 本学部のディプロマポリシーに掲げた学士力の修得を可能とする体系的カリキュラムを編成している。学部共通の専門基礎科目の中に環境科学系科目を設け，分野横断的に環境学の基礎を学ばせている。専門科目では各学科の専門領域の根幹をなす理論と技術に重点を置き，年次が進むにしたがい専門性を高め，教育の質と幅を広げている。卒業研究ではゼミナールを重要視し，新しい発想を生み出し発展させるための素養を醸成するとともに，得られた成果を効果的に情報発信するための技術を学ばせている。このように，本学部では自然と人間が調和した豊かで快適な環境を創造する能力の発展・向上を目指し，学際的な教育を行っている。

4. 特に特徴的な本学部の教育を以下に示す。

- ・児島湖及び学内水循環施設（ビオトープ池）をフィールドとした実践型環境教育や持続可能な地域社会の構築を目的とした地域住民との協働学習を実施している。
- ・海外大学との学生交流プログラムを整備し環境教育のグローバル化を推進するとともに，地域の自治体やNPOとの協働事業も展開している。
- ・段階的かつ継続的に学生のキャリア形成支援を行うべく，本学部独自にキャリア教育，進路支援のための組織（キャリアサポート室）を設け，職員を配置して活動している。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 6410-i1-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

記載事項なし

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 6410-i2-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

記載事項なし

<必須記載項目3 教育課程の編成，授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料
（別添資料 6410-i3-1～2）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料
（別添資料 6410-i3-3，別添資料 6410-i3-4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2016年度から開始した60分，4学期制度に対応するために，学部カリキュラムの大幅な改定を行った。授業内容や単位数，配当年次などの見直しを各学科で行うとともに，実践知の醸成を目的とする演習科目（環境管理工学科「環境地理学演習」，環境物質工学科「研究分野演習」）の新規開講などを実施した。[3.1]
- 2016年度から開始された60分，4学期制度について，2017年度に本学部独自にアンケート調査を行った。その結果，短期間（2ヶ月）で期末試験まで授業の内容を忘れずにすむ等肯定的な意見も見られたが，改善が必要との意見もあつ

岡山大学環境理工学部 教育活動の状況

た。従来の1コマ90分授業では、1日に5コマの授業を行うことができたが、1コマ60分の場合、基本的に2コマで1つの授業が行われるため、実質4つの授業しか1日に開講できなくなった。環境理工学部では、卒業要件単位数を減らすなどの対策をとったものの、授業のない空き時間が減少してしまった。このため、時間割の編成上、再履修ができなくなったり、教員免許の取得を目指す学生にとっては教職関係の授業の履修が困難になるなどの問題が生じた。また本学部では、午前中の3コマと午後の5コマを切り離した（3コマ目と4コマ目は別の授業を行う）ため、3、4コマ目を連続して授業を行うことになった教養教育の時間割とずれが生じてしまった。このため、1つの授業を履修するために、2つの授業の履修ができなくなるといった事態が生じてしまった。学生の意見には、病気等で欠席した場合出席回数がすぐに足りなくなるなどの意見もあった。4学期制の導入後も、講義回数の2/3以上の出席を成績評価の対象としてきたが、2019年度から出席回数は成績評価の条件から除外されることとなった。また環境管理工学科と環境物質工学科では、教養教育科目と専門教育科目の時間割のずれの影響を少しでも軽減するために、教養教育科目の「知的理解」について2020年度入学生から卒業要件単位数を4および2単位それぞれ減らすカリキュラム改定を行うこととした。[3.1]

- 本学部では、2010年度から学部共通の専門基礎科目として「ESD 学外実習」(2014年度から「ESD 実践演習」)を開講してきた。2018年度には、ESD教育のみならずSDGsについての理解も深めることを目的としたカリキュラム改定を行い、「SDGs・ESD 実践演習」に加え、新たに座学の「SDGs・ESD 実践基礎」(ともに専門基礎科目)を開講した。[3.1]
- 本学部では、環境スペシャリストとしてグローバルに活躍できる人材育成を目的とした国際共同教育プログラム「岡山大学・カセサート大学国際実践型環境教育プログラム(GP 特別コース)」を2008年度に開始した。これは夏季休業期間中の2週間、それぞれの大学で英語による講義と実習を受講するものである。2018年度からは、国立台湾大学を加えた3地域、3大学プログラム「実践型環境学：国際双方向型プログラム」に拡充されている。[3.1]
- 本学部では、製造企業ならではのグローバル戦略、ならびに環境課題への取り組みについて学ぶことを目的として、2016年度から「環境ものづくり国際インターンシッププログラム」を開始した。地元企業の岡山工場と米国工場で研修を受けるとともに、製品開発会議への参加などの就業体験を通して、技術者が背負う社会的責任等について理解を深めている。[3.1]

＜必須記載項目 4 授業形態，学習指導法＞

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料
(別添資料 6410-i4-1)
- ・ シラバスの全件，全項目が確認できる資料，学生便覧等関係資料
(別添資料 6410-i4-2～6)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
(別添資料 6410-i4-7)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料
(別添資料 6410-i4-8)
- ・ 指標番号 5， 9～10（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 大学院自然科学研究科と環境生命科学研究科の共同プログラムとして，2017年10月から「研究科横断 Flex BMD コース」が開始された。これは，多様に変化する社会的ニーズに応えうる専門知識と能力を，より早く，より深く，より広く，フレックスに学ぶことができるプログラムで，一段上の教育課程（学士課程学生なら博士前期課程，博士前期課程学生なら博士後期課程）で開講されている講義を，課程の枠を超えてフレックスに履修することができる。環境理工学部では，環境生命科学研究科，自然科学研究科と連携し，成績優秀な本学部生について，6単位を上限に博士前期課程の授業を履修できるよう制度を整備した。これまでに計9名（2018年度4名，2019年度5名）が同コース履修生として博士前期課程科目を履修した。[4.1]
- 本学部では，学部で取り組んできた ESD 教育に加え，本学が目指す SDGs 達成に向けた実践的な課題解決能力を更に高めることを目的とし，2018年度から「SDGs・ESD 実践演習」，「SDGs・ESD 実践基礎」を専門基礎科目として新たに開講した。第3期中期目標期間（2016～2019年度）では計90名がこれらの科目を履修した。[4.2]
- 本学部では，2016年度から「環境ものづくり国際インターンシッププログラム」を開始した。これは，岡山県内の地元企業と協働実施している実践型の学修プログラムで，本学での事前学習を経て，企業の岡山工場と米国工場で研修を受けるとともに，米国内の他の企業の見学を行っている。これにより，企業の製品開発における技術戦略，製造企業ならではのグローバル戦略，ならびに環境課題への

岡山大学環境理工学部 教育活動の状況

取り組みについて理解を深めている。これまでに計 19 名が同プログラムを履修した。[4.2]

<必須記載項目 5 履修指導, 支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 6410-i5-1）
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 6410-i5-2～3）
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 6410-i5-4）
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 6410-i5-5）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部では、2016 年度入学生から卒業論文履修の要件として、TOEIC L&R または TOEIC L&R IP のスコアが 400 点以上であることを課している。3 年次において基準スコアに達していない学生に対して「基礎英語実践演習」を開講し、英語力の向上を図っている。2016 年度入学生 159 人のうち 76 名が入学当初は基準スコアに達していなかったが、卒業論文履修要件審査の段階（2018 年度末）では 1 名だけが基準スコアを下回っていた。2017 年度入学生については、157 人中 52 人が入学時に未達成だったところ、2019 年度末では 5 人が未達成であった。[5.1]
- 本学部では、2006 年に学部独自にキャリアサポート室を設置し、入学時から段階的かつ長期継続的に学生のキャリア形成支援を行ってきた。2004 年以前は就職率（進学者を除く卒業生のうち、就職者の割合）が 80%を下回る年もあったが、キャリアサポート室の設置後は 90%程度に上昇し、2009 年以降は 95%以上と高い水準を維持している。週刊東洋経済（臨時増刊）「本当に強い大学 2019」の 3 年間（2016～2018）就職率ランキングにおいて、国公立理工系学部で全国第 4 位となった。就職先への広報活動に加え、キャリア教育も含めた学生支援により、学生が将来的な目的意識をもって勉学に努めた成果といえる。[5.3]

<必須記載項目 6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 6410-i6-1）

- ・ 成績評価の分布表（別添資料 6410-i6-2）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 6410-i6-3）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部では、4学科のうち2学科（環境デザイン工学科、環境管理工学科）がJABEE 認定を受けており、また1学科（環境物質工学科）がかつて認定を受けていた。残りの1学科（環境数理学科）も含めた4学科全てにおいて、JABEE 基準に準拠するかたちで成績評価を行っている。すなわち、具体的な学習・教育到達目標を設定し、目標を達成可能な授業計画を立て、各目標の達成度を成績評価に反映させており、評価を伴わない出席点を与えることは行っていない。成績評価方法はシラバスに記載するとともに、評価方法の妥当性を履修者による授業評価アンケートにより確認するとともに、必要に応じて改善している。[6.1]
- 本学では、Q-cum システムにより学修成果が可視化されている。全学、学部、学科単位で設定されているディプロマポリシー（DP）に対して、修得単位と成績（GP）にもとづいて項目別に DP ポイントが付与される。環境デザイン工学科では定期的に行われるクラスアドバイザーによる履修指導に Q-cum システムが活用されており、面談時に個々の学生の DP ポイント獲得状況を確認し、DP ポイントの低い項目について学習を促すなどの工夫を行っている。[6.2]

<必須記載項目7 卒業（修了）判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 6410-i7-1）
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料 6410-i7-2）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- すべての学科において卒業論文発表会を開催し、全教員による卒業論文審査を行っている。環境デザイン工学科では、学力レベル判定試験により基準に到達した学生のみ卒業認定の対象としている他、卒業論文発表会に学外審査員を招聘し学位論文の質保証を行っている。[7.1, 7.2]

岡山大学環境理工学部 教育活動の状況

<必須記載項目 8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 6410-i8-1）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 6410-i8-2）
- ・ 指標番号 1 ～ 3, 6 ～ 7（データ分析集）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部のアドミッションポリシーにもとづいて、一般入試（前期、後期日程）、推薦入試を実施し、形態の異なる試験により多様な学生の確保に努めるとともに、優秀な国際的人材の確保を目的として、帰国子女入試、私費外国人特別入試、国際バカロレア入試を実施している。[8. 1]
- 志願者確保を目的として、県内外の高等学校を学部独自に訪問し、学部紹介を行っている。また、その際、出前講義のリストを持参しており、高等学校からの要請に応じて教員を派遣するようにしている。[8. 1]

<選択記載項目 A 教育の国際性>

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
（別添資料 6410-i4-3）（再掲）
- ・ 指標番号 3, 5（データ分析集）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部では、2016 年度入学生から卒業論文履修の要件として、TOEIC L&R または TOEIC L&R IP のスコアが 400 点以上であることを課すとともに、3 年次において基準スコアに達していない学生に対して「基礎英語実践演習」を開講し、英語力の向上を図っている。[A. 1]
- 本学部では、環境スペシャリストとしてグローバルに活躍できる人材育成を目的とした国際共同教育プログラム「岡山大学・カセサート大学国際実践型環境教育プログラム（GP 特別コース）」を 2008 年度に開始しており、2018 年度からは国立台湾大学を加えた 3 地域、3 大学プログラム「実践型環境学：国際双方向型プログラム」に拡充した。このプログラムでは、英語による授業を 3 単位分開講している。また、2017 年度から開始された、学内の英語による教育プログラム（グ

ローバルディスカバリープログラム) に 28 単位分の英語による授業を提供している。[A. 1]

<選択記載項目 B 地域連携による教育活動>

【基本的な記載事項】

記載事項なし

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

○ 本学部の専門基礎科目「実践型水辺環境学及び演習 I, II」では、岡山県南部に位置する児島湖周辺の水辺環境を題材に、学内水循環施設（ビオトープ池）を活用しながら、自然環境の機能を理解し、地域・国際的な対応能力を身につけた“水環境スペシャリスト”を養成することを目的としている。行政機関や環境保全団体等から学外講師を招き、実社会の環境問題と対策について学んでいる。
[B. 1]

○ 本学部では、岡山市の協力のもと地域住民も参加して行う授業として、専門基礎科目として 2010 年度から「ESD 学外実習」（2014 年度以降は「ESD 実践演習」）を開講しており、2018 年度からは SDGs を取り入れた「SDGs・ESD 実践演習」, 「SDGs・ESD 実践基礎」を開講している。この授業では、地域の環境問題等からテーマを選定し、学生と地域住民を交えた受講者同士のディスカッションなどを通して、多様な見方や考え方、価値観に触れ、意思決定と合意形成の力を身につけることを目的としている。[B. 1]

○ 本学部では、2016 年度から「環境ものづくり国際インターンシッププログラム」を開始している。地元企業の岡山工場と米国工場で行う研修内容については、企業側に任せるのではなく、毎年行う世話役教員との打ち合わせにより決定している。[B. 1]

<選択記載項目 C 教育の質の保証・向上>

【基本的な記載事項】

記載事項なし

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

○ 本学部は、「環境」を教育研究の柱として創設された全国最初の国立大学の学部

岡山大学環境理工学部 教育活動の状況

であり、教員それぞれが教育内容、方法や研究プロジェクト、内容、方法等について勉強することが必要と考え、他大学、他学部在先駆けて教員研修会（FD）を企画し、1996年度から実施してきた。学内外から幅広い分野の専門家を招聘し教育・研究に活かすため、年4回実施しており、2016年度以降も継続している。

[C.1]

- 外部評価としては、環境デザイン工学科と環境管理工学科が2004年度からJABEE認定を継続しており、環境物質工学科は2005年度から5年間の認定を受けていた。環境数理学科もJABEEに準拠したカリキュラムを構築しており、2008年度以降は外部委員を招聘し評価を受けている。[C.2]

<選択記載項目D 学際的教育の推進>

【基本的な記載事項】

記載事項なし

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部はディプロマポリシーの中で謳っているように、地球規模で拡大する環境問題に対処し、持続可能な社会を構築するため、学際的な幅広い知識を身につけ、自然と人間が調和した豊かで快適な環境を創造する能力を持つ人材の養成を行ってきた。学部共通の専門基礎科目の中に環境科学系科目を設け、多様な領域にまたがる環境学の基礎を体系的に整理することで、学際的な幅広い知識を修得させている。特に、2016年度のカリキュラム改定により開講した「SDGs・ESD実践演習」，「SDGs・ESD実践基礎」，「実践型環境学：国際双方向型プログラム」は専門分野の枠にとらわれない、本学部の学際教育を特徴づける科目といえる。[D.1]

<選択記載項目E リカレント教育の推進>

【基本的な記載事項】

- ・ リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物，ウェブサイト等の該当箇所（別添資料 6410-iE-1）
- ・ 指標番号2，4（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部では、2010年度からESDをテーマとした専門基礎科目「ESD学外実習」

岡山大学環境理工学部 教育活動の状況

(2014 年度から「ESD 実践演習」)を開講しており、2018 年度からは SDGs を加えた「SDGs・ESD 実践演習」と「SDGs・ESD 実践基礎」を開講しており、岡山市の地域住民も参加していただくことで、EDS や SDGs 学習の機会を提供している。[E. 1]

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目1 卒業（修了）率，資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 6410-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 6410-ii1-2）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部の2016年度以降の標準修業年限内卒業率は86.0%，84.1%，89.6%と推移しており，2018年度は90%に迫る高い卒業率になっていた。理工系学部で比較すると，理学部よりは高く，工学部と同程度といえる。[1. 1]
- 本学部の2016年度以降の「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率は，93.2%，92.9%，94.3%と推移しており，2018年度が最も高くなっていた。理工系学部で比較すると，理学部よりは高く，工学部と同程度といえる。[1. 1]

<必須記載項目2 就職，進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部の設置当初は，教育理念に対する社会（主に就職先となる企業）の理解が決して高かったわけではなく，学生は就職活動に苦勞していた。そこで，単なる就職支援に留まらず，入学時から段階的かつ長期継続的にキャリア形成支援を行うことが必要と考え，2006年に国立大学では初めての学部独自の試みとしてキャリアサポート室を開設した。キャリア・コンサルティング技能士の資格（国家資格）を有する相談員を配置し，学生の就職や進路などについてきめ細かく支援を行うとともに，生活面などの悩み相談にも応じた。2004年以前は就職率（進学者を除く卒業生のうち，就職者の割合）が80%を下回る年もあったが，キャリアサポート室の設置後は90%程度に上昇し，2009年以降は95%以上と高い水準を維持している。設置以前は無業のまま卒業した学生が10%を越えていたが，設置後は5%を未滿で推移している。2012年度は就職率が98.4%となり，理工系学部で全国1位となった。第3期中期目標期間においても，週刊東洋経済（臨時増刊）「本当に強い大学2019」の3年間（2016～2018）就職率ランキングにおいて，国公立

岡山大学環境理工学部 教育成果の状況

理工系学部で全国第4位となった。就職先への広報活動に加え、キャリア教育も含めた学生支援により、学生が将来的な目的意識をもって勉学に努めた成果といえる。[2.1]

- 公務員になる卒業生の割合が非常に高いこと（2018年度：就職者の50%）も本学部の特徴であり、社会貢献意識の高い学生が非常に多いといえる。また、岡山県内の企業や自治体に就職する学生も多く（2018年度22%）、地域の人材需要も高いといえる。[2.1]

<選択記載項目A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料
(別添資料 6410-iiA-1)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 第2期中期目標期間の卒業予定者（2010～2014年度）に対する全学アンケートでは、本学部の卒業予定者の85%が満足（非常に満足、かなり満足、やや満足）と回答していた。第3期中期目標期間では、2015～2018年度卒業予定者の84%が満足と回答しており、大きな変化は認められなかった。ただし、2017年度の卒業生については満足と回答した学生が77%と低い割合であったのに対して、2017年度を除くと87%と割合が高くなっていた。2017年度の満足度が低い理由は定かではないが、他の年度の満足度は第2期中期目標期間に比べて上昇していると思われる。[A.1]

<選択記載項目C 就職先等からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 就職先の関係者への意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料
(別添資料 6410-iiC-1)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部環境デザイン工学科ではJABEE認定を「土木および関連の工学分野」で受けている。このため同学科では、技術者教育における社会からの要請について知り、学習・教育到達目標の改善を図ることを目的として、土木関連分野の就職

岡山大学環境理工学部 教育成果の状況

先（国や地方自治体，企業等）の協力によりアンケート調査を実施している。2017年度の調査結果では，「教養，専門性，情報力，行動力，自己実現力」の5つの素養について，その重要性和素養の修得のために割り当てられている学習時間のバランスについて質問したところ，最も多くの回答者（37%）が重要と答えた「行動力」について，回答者の29%が学習が不足していると感じていた。25%の回答者が重要とした「専門性」については，学習不足とした回答は17%に留まっており，十分な学習時間が確保された教育プログラムとして認識されていた。[C. 1]

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標 番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍 状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する 科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数 (常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業 データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路 データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 部分の指標（指標番号 8，12～13）については，国立大学全体の指標のため，学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。